

# 潤うるおい

2007年  
7月1日発行

No.  
29



(財)潤和リハビリテーション振興財団

潤和会記念病院

病院長 呉屋 朝和

〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地

TEL0985-47-5555 FAX0985-47-8558

<http://www.junwakai.com>

## 医療施設の維持と充実を目指して

常務理事・事務局長 北林 嘉紘



私たちは、旧宮崎温泉リハビリテーション病院の老朽化に対処して、まず平成15年秋に記念病院北館を新築（第一期工事）して南館をそこに移し、翌16年秋に南館を増改築（第二期工事）して旧温泉病院をそこに移転させました。

大工事が終わって一段落したところで、翌17年9月には台風14号により床上150cmにも達する1階部分全滅という浸水被害を受けました。このときは、もしも旧温泉病院が移転していなかったら急速な増水で大惨事を招いただろうと、胸を撫で下ろしたものでした。大変な被害は蒙りましたが、地域の皆様や地域の医療機関のご支援と職員一丸となった復旧作業で、外来は2週間、救急は3週間で再開することが出来ました。しかし、医療の中断は医療機関として極力避けるべきことであり、復旧に際しては医療機器など重要設備を上層階へ移そうとも考えましたが、既設の建物の構造上、大改築が必要なため現実的には無理であり、外部からの水の浸入を一切遮断するしかないと考えました。そこで採った対策が、玄関や窓などの全開口部を特殊なパネルで遮水し、逆流してきた排水溝に逆流防止バルブを設置することなどでした。膨大な費用を要しましたが、台風の教訓から医療の中断を避けることを優先いたしました。

また、今年1月に、ペインクリニックの患者様の増加と外来待ち時間短縮を図るべく、外来診察室を4室増築し、ペインクリニックの拡張をいたしました。

以上が施設改善に関する近況であります。今春からまた新たな工事など（第三期工事）を始め、以下、施設の維持と充実を目指した現在の私たちの取り組みを紹介させていただきます。

私たちの財団は、リハビリテーションの研究、そのために必要な医療機関及び介護老人保健施設の運営、リハビリテーション関係者の養成と研修などを目的としております。そのために研究所、

病院、老健施設、在宅医療支援センター、理学療法士養成学院などを擁しております。箱物といわれるこれらの施設は、当然老朽化致しますし、事業の継続のためには建て替えが必要になります。また、少子高齢化による医療福祉財源問題から国の医療及び介護制度の改革が急であり、医療機関は、それに対応した設備を含めた医療や介護の質の向上などの対策が求められております。

そこで、まず、老朽化した宮崎リハビリテーション学院と記念病院リハビリセンターを従来の学院の跡地に建て替えることとしました。今年4月に着工し、1階にリハビリセンター、2階以上を学院とする5階建ての施設を来年2月に完成する予定です。学院は、従来の理学療法学科のみではなく作業療法学科も新設し、夜間部も設ける予定です。これは、リハビリテーションの質の向上と高齢化や維持期リハビリテーションなどの要員確保という社会的要請に対応するものです。

更に、医療の充実を図るために、記念病院北館を東側に増築いたします。ここには、がん治療の社会的要請にこたえて最新鋭の放射線がん治療機を設置し、来年4月から放射線がん治療を本格的に開始する予定です。また、予約待ちでご不便をおかけしておりますMRIを新たに1基増設致します。これには、従来よりも精密な3テスラという機種を導入を予定しており、稼動予定は今年11月です。

また、昨今の手術増の要請に対応して今年9月に手術室を1室増設し、5室と致します。

私たちは、地域の皆様にご安心いただけるように間断ない医療と介護の継続とその質の向上に努力していきたいと願っております。地域の皆様の温かいご支援をお願いする次第です。

# 病院機能評価認定

当院は、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価による審査を受け、機構が定める認定基準に達成している事が認められ、2007年2月19日付けで認定証（認定第JC1247号、審査体制区分3 Ver5.0 一般・療養200床以上500床未満）を受領しました。今後、この審査結果を踏まえさらなる病院機能の向上を目指して行きます。

## ○日本医療機能評価機構とは……

病院を始めとする医療機関の機能を学術的観点から中立的な立場で評価をする（第三者評価）機関として、財団法人日本医療機能評価機構があります。1997年より"病院機能評価事業"を実施するとともに、その結果明らかとなった問題点の改善を支援するための活動を行っています。

## ○第三者による評価の必要性……

病院が提供する医療サービスは、患者のニーズを踏まえつつ、質の高い医療を効率的に提供していく必要があります。そのためには、医療機関の自らの努力が最も重要であり、そのため医療機関が自らの機能を評価する自己評価が実施されているところです。こうした医療機関の努力をさらに効果的なものとするためには、第三者による評価を導入する事で、中立的な立場で病院を評価することができます。

## ○機能評価認定取得への道

3年前の平成16年2月12日 機能評価受審推進委員会のキックオフミーティングにて、呉屋院長より「客観的評価を受け自分たちの病院の機能レベルなどを認識することは非常に意義のあることである。全員参加で受審に向かって改善努力し、評価を励みとして、地域医療に貢献して行きたい。」との挨拶により、病院機能評価認定取得に向かっての取り組みが始まりました。

まずは、初回の自己評価をおこない現状を知った上で、各部署の担当者がそれぞれの項目について検討し、不足している委員会の設置、マニュアルの作成、見直し等様々な項目において職員全員で取組んで参りました。さらに第1次、第2次の自己評価を行うと共に、コンサルによる3日間の訪問模擬審査を受け、ある程度認定に向け目処がたった様にも思えました。しかし皆さんもご存知のあの2005年9月6日襲来の台風14号により当院が被災し多大の損害を受け、機能評価の書類も一部水に浸かり紛失してしまいました。この被災による病院復興に全職員の労力が費やされ、一時期、受審に向けての勢いが薄れかけたように見えたが、受審日を2006年2月に延期し機能評価認定取得に向け、再度全職員が一丸となって取組みました。

訪問審査の総評では良い評価も貰いましたが、課題もありこの課題を検討しながら結果待ちとなりました。審査の結果、残念ながら一発では認定取得には至らず再審査となりましたが、仕切り直しと課題点についての書類の作成、業務流れの変更、委員会活動、研修会、電子カルテ運用の見直し等を行い、2006年12月に再審査の書類を機構へ送りました。再審査が、訪問審査なのか書類審査のみなのかで一抔の不安もありましたが、書類のみの審査となりほっとしていたところ、晴れて2007年3月5日に審査決定通知が届き、2月19日付けで審査内容が厳しくなったVer5.0で認定されました。

キックオフミーティングから3年かかりましたが、職員全員の結束がとれ、機能評価に取組む前と比

べ、格段に病院の質が向上したものと感じています。また、今以上に病院機能の向上が図れるようこれからも努力して参ります。

## ○認定取得までの経過

- 2004年
- 2月16日 機能受審推進委員会キックオフミーティング
  - 3月 初回自己評価の実施
  - 11月 機能評価受診申込
  - 12月 受診病院説明会参加
- 2005年
- 1～2月 第1次自己評価の実施
  - 2～5月 問題点の改善、対策の実施
  - 5月下旬 コンサルによる部門（部署）別書類チェック
  - 5月下旬 書類審査調査票の記入
  - 6月 第2次自己評価の実施
  - 7月 コンサルによる3日間の訪問模擬審査
  - 7/13（火）1日目 部門（部署）長との合同面接
  - 7/14（水）2日目 部門（部署）訪問との面接
  - 7/15（木）3日目 総合評価
- 8月1日 書面審査調査票・病院資料の提出（7/28発送）
- 書面審査調査票
    - ・施設基本票・部門別調査票
    - ・診療機能調査票・経営調査票
    - ・自己評価調査票
  - 病院資料
    - ・病院の沿革・病院案内・組織図
    - ・入院案内・院内平面図
    - ・委員会組織図
- 8月26日 修正した書面審査調査票の再送付
- 2006年
- 1月30日 機構へ書類送付（1/30発送）
  - 訪問審査当日の進行表
  - 1日目に確認する書類一覧
  - 病院組織図、委員会組織図の一部変更分
  - 2月 訪問審査実施
  - 22日（水）挨拶、概要説明、書類確認
  - 23日（木）合同面接、部署訪問
  - 24日（金）部署訪問、全体講評
  - 6月6日 審査結果通知
  - 7月6日 審査結果報告書
  - 12月15日 再審査受診申込資料送付
  - 1.再審査受審申込申込書
  - 2.改善報告書
  - 3.改善資料一覧
- 2007年
- 2月14日 書類等のみによる審査の決定
  - 2月5日 審査決定通知 審査体制区分3 Ver5.0で認定
  - 3月12日 機構ホームページに掲載される
  - 3月13日 認定証受領（2007.2.19付け）
  - 3月22日 公式記念病院ホームページのご案内に掲載
  - 4月13日 院内ロビーに認定証を掲示
  - 4月25日 公式記念病院ホームページに掲載

以上  
文責 上園 勝弘



財団法人日本医療機能評価機構

<http://jcqhc.or.jp/html/index.htm>



# 薬と食べ物の組み合わせ

普段口にしてる食べ物が、服用している薬との飲み合わせが悪く、薬の作用が強く出てしまったり、薬の作用が弱くなったりすることがあります。体に良いと思っていても、逆効果になっている場合もあるのです。

いくつか例をあげてみます。

## ○牛乳

牛乳にはカルシウム(Ca)が含まれています。テトラサイクリン系・ニューキノロン系といった種類の抗生物質がCaと結合して薬の効果が下がってしまうことが知られています。逆に抗真菌薬は効果が強く出ることがあります。

また、胃薬の中にはCaの吸収を高める薬があり、血液中のCaが増え、吐き気・嘔吐・倦怠感などが見られることがあります。飲みすぎには注意しましょう。

腸で溶ける構造になっている薬は、牛乳によって胃で溶けてしまい胃が荒れることがあるので注意が必要です。

## ○お茶

お茶に含まれるタンニンは貧血治療薬の鉄剤の吸収を妨げることから、以前はお茶を飲まないよう注意を促していましたが、最近は適度のお茶は問題なく、必要量の鉄は吸収されていることが明らかとなっています。しかしながら、濃いお茶や多量のお茶で薬を服用することは避けてください。

## ○グレープフルーツジュース

グレープフルーツの中の成分がカルシウム拮抗剤という種類の高血圧治療薬の血液内の濃度を高め、作用を強める可能性があります。

他に高脂血症治療薬、免疫抑制薬、睡眠導入薬の一部の薬剤等も同じように作用が強まる可能性があるため、グレープフルーツジュースは避けてください。

みかん、カボス、オレンジ等にはこのように作用を強める成分は含まれていませんが、夏みかん、スイーティー等は気を付けましょう。

## ○納豆

納豆に含まれる納豆菌によって体内でビタミンKが多く作られます。ワルファリンという血液凝固阻害薬はビタミンKを阻害して血液を固まりにくくして血栓ができるのを予防しているため、納豆を食べていると効果が弱くなってしまいます。

また、クロレラ、青汁にもビタミンKが多く含まれているためワルファリン服用している方は控えましょう。

ほうれん草やブロッコリー、キャベツ等にも含まれていますが、日常の量では問題ありません。大量摂取は避けましょう。

## ○お酒

薬を服用中にアルコールを摂取すると、薬の効果が強くなったり弱くなったりすることがあります。薬とアルコールの摂取時間を6時間程度はあけましょう。

特に睡眠薬や精神安定剤等はアルコールと一緒に飲むと効果が非常に強くなりますので、一緒に飲むことは避けましょう。

市販のドリンク剤にも少量ですがアルコールを含んでいます。用法用量を守りましょう。

ここに記載したものは一例であり、これ以外のものでも注意すべき組み合わせがあります。また、薬剤によってはここに当てはまらないものもありますので、薬をもらわれる際には薬剤師にご相談ください。

# みなさんこんにちは!

新しく来られた先生の紹介をいたします。

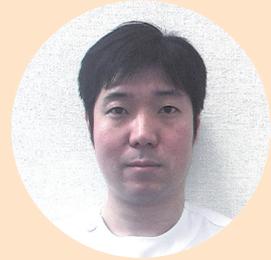
## 由 浅 充 崇 (ゆあさ みちたか) 36才

【担 当 科】 整形外科・リウマチ科

【出身大学】 九州大学

【趣味・特技】 食べ歩き、音楽

【自己PR】 絶えず勉強し向上する気持ちを忘れることなく、よりよい医療を提供できるように努めていきたいと思ひます。



## 津 嶋 秀 俊 (つしま ひでとし) 30才

【担 当 科】 整形外科・リウマチ科

【出身大学】 九州大学

【趣味・特技】 スポーツ観戦(格闘技・サッカー)、テニス

【自己PR】 今、最も勢いのある宮崎県で働けることに喜びを感じています。何事も前向きに頑張っていきます!!



## 記念病院 理 念

### 「人 間 愛」

#### 記念病院 基本方針

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療を提供します。
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践します。
3. チーム医療を推進し、より良い医療を目指します。
4. 豊かな人間性を兼ね備えた医療人を育成します。
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境を作ります。

## あ と が き

### 「肩こり体操」

現代人の多くが悩まされている肩こりにはさまざまな原因があります。

病的原因以外では、姿勢の悪さ・目の疲れ・運動不足・ストレスなどといった生活習慣から肩こりを引き起こしているようです。

私も肩こりに悩まされている一人ですが生活習慣の原因そのものですね。ほとんど運動はしませんし、パソコンに向かっているときは猫背になっています。

そんな私をみて、友人が気軽にできる体操を教えてくださいました。面倒くさがりの私でも気軽にできる運動でした。

肩こりに悩まされている方に『タオル体操』を紹介したいと思います。

・準備するもの：少し長めのタオル（フェイスタオル・手拭など）

① 背筋をきちんと伸ばします。椅子に座って行ってもよいですし、正座・あぐらでも結構です。猫背にならないように注意して下さい。

タオルの両端を握ります。肩幅より広い間隔に手の位置がくるように握り、タオルを持ったまま頭上に両手を挙げます。このとき肘はなるべく伸ばします。（図を参考にしてください）

② ①の基本姿勢から、両手をまっすぐ下ろします。タオルが首、背中、後ろにくるようにならせます。両手が下ろせない位置で一旦止めます。

③ 次は逆に背中↓首の順に挙げていき、はじめの基本姿勢に戻します。この一連の動きを繰り返します。一日、一分でも五分でも充分です。動かすスピードも自由です。慣れてきたら、タオルの握り幅を少しずつ狭くして行ってみてください。

仕事の合間や休憩時間、休日などにこの『タオル体操』をされてみてはいかがでしょうか？



カワデ治療院HP参照